

地域(タニケ)協議会へ向けに勉強会が続く

少子超高齢社会は人口構成のアンバランスが進み受け身側の分子が増え能動側の分母が減る社会。これが産業界、医療、教育、税制、環境、等全ての側面で大きな歪を生じさせ、とりわけ社会保障費の増大が私達の生活に多大な影響を及ぼしている。税収が増えずに給付が増大すれば破綻するのは当たり前で、介護保険だけでなく健康保険も心配される。「いつまでも健康で仕事もして」が理想だがきれいなことだけでは済まされない。分母側を増やすには、諸保障制度の年齢引き上げ、拠出・負担・諸料金・税の高額化の政策も続く。

しかし今の人口構成ではそうしなければこれまでの社会制度が維持できず破綻しかねない。社会保障制度という公助だけでは福祉社会維持ができなくなりつつあるのだ。その為に国・行政は地域自治分野の共助力を最大限活用していることという方向にある。今行政は地域包括ケアシステム構築や介護保険総合事業の推進等に注力しているが、これは

介護保険制度維持という狭義の為だけでなく、大きく社会生活維持の為に必要、ということだ。その新たな取組として、市元気高年齢課主導の下にて、従来からの組織団体の枠を超えて、安心安全の住みよい地域造りに地区をあげて全体で話し合える場を作ろう、との勉強会が山辺でも始まっている。

当地区社協も地区内各団体・住民が結集した横断的組織であり、福祉面から住みよい支え合える安心安全の地域造りを推進してきている。活動実績も評価されていることから、軌轢を招くような目的が同じ組織を複数作る愚は避けるべき、やるなら市はこの地区社協を活用して整合性ある拡大組織構築を考へるべき、との役員意見も多かった。これをふまえて現在まで4回の勉強会をもつてきているのは、当社協を構成する団体だけでなく、更に諸福祉施設、医療関係者、商店関係者、公的機関等が大同参画しての、「住みよい地域づくり」についてフリートークキングの会議の場を作りたいという市

フラワーパークまで電車利用で足を伸ばす

「ふれあいハイキング」

子どもから高齢者まで参加者が和やかに交流しながら故郷の歴史や自然に触れる恒例のふれあいハイキングを11月25日、市の文化財一斉公開日に合わせて実施した。参加は園児、小学生、中学生を含んで34名。

今回は田中町連合自治会館に集合しJRに乗って富田地区へ。富田駅で降り駅前の東陽院(曹洞宗)へ。樹齢四百年の黒松の大木は見事。住職に頼み込んで本堂内も見学、彫物も見事。(因



新駅の階段は格好のひな壇に。参加の皆さんです。

みに、住職の妹が山辺に嫁ぎ老人給食委員として活動中)のどかな秋の田園風景の中を歩き、三柱神社の天井彩色板絵を見てフラワーパークへ。折りしも秋のグルメフェスタ開催中。多数の来場者に混じって昼食に活用させて貰う。園内散策と共に、背景となっている多田木山へも健脚組が登る。自由時間後、今回の我々のデスティネーション(目的地)の一つの「足利フラワーパーク」前に再集合し最新駅内外を見学、電車にて帰途につく。これまでない実施形態となったが、様々な場面でふれあいの機会が多く、今後の企画の広がりを感じた。

近隣の見守り力を生かそう

「見守り福祉協力員制度の拡充」

お元気な独居高齢者だけでなく見守りが必要な方も増え続けている。介護保険や乳酸菌飲料お届け等公助制度の活用、民生委員や隣組によるさりげない相互助の見守りが継続的に実施されてきている。

当地区社協もふれあいサロン、安心キット、友愛訪問、特別食会、給食サービス等で民生委員を補佐する見守り・安否確認活動を実施しているが、これらは月一回程度であり、民生委員を含めて日常継続的な見守りは中々難しいのが現実である。

一方で日常の暮らしの中から、近隣の「気になる異変」の気付きは、意識することで容易に得られ易く「見守り活動の最前線」といえる。この気付きを民生委員に伝えることが出来れば、公助に繋がる民生委員の見守り活動は何倍もの効果を発揮できることとなる。

この近隣の善意の見守り心を育み、民生委員の見守り力を高められる仕組みが当地区協の「見守り福祉協力員制度」である。あくまでも任意の制度で、活

用にもリット有りと感じた

者か民生委員かの発意でその当事者の為の緩やかな見守りの輪を作っていく方式。

「何かあった時は頼むね」「何かあったら民生委員・自治会で助けに行きましょうね」の会話から成り立つ仕組みで、これが地域に更に浸透していくための基盤・受皿としての制度だ。

既に任意で同様の仕組みを活用している民生委員もおり、地区社協への登録は任意。地区社協台帳(外部秘)に登録すれば身分保証や公的相談・支援も可能。

こんな仕組みがあることを、皆さん、是非知ってくださいね。



皆さん、「おひさまカフェ」知っていますか?障がいというハンディを負っている方々も、普通に支え合って交流生活できる地域にしたいと思っている住民の方々の交流サロンです。当地区での4回目のカフェを山辺公民館で、2月23日に開催した。今

回も当事者の方々を含めて、40名の参加で楽しい有意義な時間を持つ事ができた。

今回心掛けたことは、「もつと直接声掛け交流を」。参加全員が名札に住んでいる町名も書き入れ会話のきっかけ作りをしたり、交流の媒体としてスポーツゲイム器具を三つコーナーに配し共に楽しんだり、好ゲーム賞には手作りのチョコメダルを架けてあげたりして自然な交流が図れた。会場で作るポップコーンやドリンク・お菓子コーナーも好評だったが、歌に合わせて大きな煎餅にチョコビーズで絵を描いていく「お絵かき煎餅」も大人気。その場で美味しく食べられるのも人気の元か。

山辺のおひさまカフェに欠かせないのがコーラスグループのサロン四季。皆で歌う歌を通して会場を一つにしていく。子供達も知ってる歌も、と今回「世界に一つだけの花」「三百六十五日の紙飛行機」をCDで挑戦、当事者やその兄弟の子供達、更に今回ボランティア参加してくれた小四・五年の二少女達もマイクをもって元気に歌ってくれた。そして最高に会場を盛り上げてくれたハプニングが二つ。軽く



カモンベイビーアメリカ! ノリノリダンスに会場大喝采

流したノリのいい曲「USA」に当事者の中学生や参加の子供達が始めて、思わず周りの大人達も一緒に手足を振って大喝采を博した。二つ目はその子供達が最後にサロン四季のおば様たちに感謝のチョコメダルを架けてあげたことで感動のフィナーレが飾れたこと。

やって初めて得られる感動を参加の全員が感じ取れたのではないかとと思われる最高のサロンとなった。自分がハンディを持っている方、悩まれている方やご家族、思い切っておひさまカフェにきてみませんか。きっと新しい世界が広がっていきますよ。(次回は町内回覧にて)